

授業科目名： 健康・スポーツ科学概 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鶴木秀夫，松村浩貴
			担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
健康やスポーツに関する基礎的な事項の科学的理解を深め、個人及び集団（社会）の健康を保持増進するための情報収集能力、思考力を養うことを目的とし、健康やスポーツに関わる諸問題の探求・解決能力を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
全学部の学生を対象として、オンラインで実施される。健康、スポーツおよび身体活動・運動について、多角的な視点から学ぶ。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（本講義の目的・目標等）と健康の概念と評価について（担当：鶴木）			
第2回：現代社会と健康：生活様式の変化と健康の関わりについて（担当：鶴木）			
第3回：健康にまつわる現代的課題：疾病構造の変化、肥満と痩せなどについて（担当：鶴木）			
第4回：ヘルスリテラシー：健康と運動・スポーツに関連する疫学の基礎について（担当：鶴木）			
第5回：身体の科学的理解1：生理学・体力的視点から学習する（担当：鶴木）			
第6回：身体の科学的理解2：心理学・栄養学的視点から学習する（担当：鶴木）			
第7回：運動・スポーツの科学的理解1：トレーニング・エクササイズについて（担当：鶴木）			
第8回：運動・スポーツの科学的理解2：ライフステージに応じた健康づくり運動について（担当：鶴木）			
第9回：運動・スポーツの科学的理解3：日本における身体活動・運動関連施策について（担当：鶴木）			
第10回：総合型地域スポーツクラブ：その意義と役割、運営方法について（担当：松村）			
第11回：商業型フィットネスクラブ：消費者行動、最近の動向について（担当：松村）			
第12回：スポーツツーリズム・ヘルスツーリズム：地域観光戦略、地域振興、現状とその効果について（担当：松村）			
第13回：スポーツイベントツーリズム：運営方法、最近の動向と課題について（担当：松村）			
第14回：オリンピック：歴史と財源、問題点とこれから（担当：松村）			
第15回：プロスポーツ：リーグマネジメント、チームマネジメント、地域密着について（担当：松村）			

定期試験は実施しない。
テキスト 特に使用しない
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 鶴木秀夫 編「健康づくりのための運動の科学」化学同人，2013年 中山和弘 著「これからのヘルスリテラシー 健康を決める力」講談社，2022年 原田宗彦 編著「スポーツ産業論」杏林書院，2021年
学生に対する評価 毎回提出するミニレポートを総合的に評価する。

授業科目名：健康・スポーツ科学演習1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森寿仁、櫻木規美子、西田 昂平、岡田隆造、藤井明美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>健康的な生活を営む上で、体力の定義、体力測定の方法と評価、日常生活の中に運動・スポーツを取り入れる方法について学ぶことは重要である。身体活動の必要性和スポーツ文化の意義を認識し、スポーツ活動の実践方法を習得するとともに、体力の現状を把握し健康の維持増進をはかることを目的とする。また、生涯を通じて、健康的で豊かな社会生活を実践できる素養を身につける。</p> <p>本科目の到達目標は、1) 自己の体力の現状を把握するとともに生活の中で役立つ健康づくりのためのトレーニング理論と方法を学び実践すること、2) 生涯スポーツとして運動・スポーツに安全かつ楽しく取り組むために、基礎的なルールやマナー、技術を身につけ、心身の健康のために活用できるようになること、である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、体力の基礎および日常生活における運動・スポーツの実際に対する理解を深めることを目的とし、健康の視点から運動・スポーツの概念やそれを取り巻く課題について論究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目標と概要の説明</p> <p>第2回：体力測定 体力測定の目的・方法の説明</p> <p>第3回：体力測定 各種測定の実践</p> <p>第4回：体力測定 自己体力の分析と課題の確認</p> <p>第5回：レジスタンストレーニングの基礎理論</p> <p>第6回：レジスタンストレーニングの応用</p> <p>第7回：チームスポーツ タグラグビーの理論／基礎技術</p> <p>第8回：チームスポーツ タグラグビーの実践</p> <p>第9回：チームスポーツ インディアカの理論／基礎技術</p> <p>第10回：チームスポーツ インディアカの実践</p> <p>第11回：チームスポーツ アルティメットの理論／基礎技術</p> <p>第12回：チームスポーツ アルティメットの実践</p> <p>第13回：レクリエーションスポーツ バドミントンの理論／基礎技術</p> <p>第14回：レクリエーションスポーツ バドミントンの実践</p>			

第15回：まとめと評価（理解度，到達度の確認）

※第5回から第14回までの10回分は履修者を5グループに分けて、5種目（レジスタンストレーニング，タグラグビー，インディアカ，アルティメット，バドミントン）を各2回ずつ取り組む（教員5名で5種目を分担）。

定期試験は実施しない。

テキスト

健康・スポーツ科学演習テキスト

参考書・参考資料等

実習・体力の測定と評価（みらい）

学生に対する評価

レポート40%、授業内容への取り組み（積極的な取り組み、技術習得への工夫など）40%、技術到達度20%を基準として総合的に評価する。

授業科目名：健康・スポーツ科学演習2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 野村健、櫻木規美子、西田 昂平、岡田隆造、藤井明美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>健康で活力ある生活を送るために備えておくべき身体的能力の向上や、ゲーム（実戦）を通してスポーツの楽しさを体験するとともに社会性を身につけることを目的としている。また、自己の健康管理能力を高めることの必要性を教授する。</p> <p>本科目の到達目標は、競技種目の特性を理解し、1) 基本技術を修得し実践できるようになること、2) 各種目の指導法に応用できるようになること、である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、以下のなかから種目を1つ選択し、各スポーツの基礎的な個人技能および集団技能の向上を目指し、全授業回を通して取り組む（種目：ソフトボール、バレーボール、フットサル、卓球、硬式テニス）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目標と概要の説明および種目選択（以下、V：バレーボール、S：ソフトボール、F：フットサル、P：卓球、T：硬式テニス）</p> <p>第2回：V：オーバーパス、S：キャッチボール、F：ボールコントロール、P：グリップ、T：ボール衝き</p> <p>第3回：V：アンダーパス、S：遠投、F：ドリブル、P：フォアハンド、T：ボレー</p> <p>第4回：V：対人プレー、S：トスバッティング、F：2人でのパス練習、P：バックハンド、T：ミニテニス</p> <p>第5回：V：スパイクセミ、S：内野守備、F：パス&ムーブ、P：フリック、T：ミニゲーム</p> <p>第6回：V：スパイクオープン、S：ダブルプレー、F：1対1、P：ドライブ、T：ストローク</p> <p>第7回：V：クイック、S：外野守備、F：4人でのパス回し、P：ツッツキ、T：ボレー対ストローク</p> <p>第8回：V：スリーマン、S：関係プレー、F：パス&シュート、P：カット、T：半面シングル</p> <p>第9回：V：サーブ、S：ハーフバッティング、F：ポストからのシュート、P：サービス、T：サービス</p> <p>第10回：V：ブロック、S：フリーバッティング、F：トラップシュート、P：レシーブ、T：試合の進め方</p> <p>第11回：V：サーブレシーブ、S：シートノック、F：3人システム、P：3・5球目攻撃、T：フォ</p>			

一メーション

第12回：V：レシーブからの攻撃、S：リーグ戦、F：ミニゲーム、P：シングルの試合、T：ダブルスの試合

第13回：V：ゲーム、S：ゲーム、F：ゲーム、P：ダブルスの試合、T：ダブルスの試合

第14回：V：ゲーム、S：ゲーム、F：ゲーム、P：団体の試合、T：ダブルスの試合

第15回：まとめ（技術到達度の確認）

※5種目（ソフトボール、バレーボール、フットサル、卓球、テニス）に対し、担当教員を1名ずつ配置。履修者は第1回時に種目を1つ選択し、全授業回を通して取り組む。

定期試験は実施しない。

テキスト

健康・スポーツ科学演習テキスト

参考書・参考資料等

ソフトボール入門（大泉書店）、バレーボール指導教本（日本バレーボール協会編）、サッカーオフ・ザ・ボール（成美堂出版）、新基本レッスン 卓球（大修館書店）、テニスの初心者指導（大修館書店）

学生に対する評価

技術到達度50%、授業内容への取り組み（技術習得への工夫、積極的な取り組みなど）50%を基準として総合的に評価する。

授業科目名：English Communication 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：内山知美、岡部浩子、川上聰、崎川裕貴子、崎野悦代、安川佳子、ディエゴ・ロドリゲス、キャサリン・ピエトコスキー
			担当形態： クラス分け（単独）
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>4技能の基礎の習得を目指し、特に「聞く力」と「話す力」を中心に養成する。授業では、①日常生活や学術活動、将来のキャリア等において必要となる基本的な英語文を理解し、表現すること、②上記の英語文を活用しながら、身の回りで起こる事柄の趣旨や要点を表現すること、に焦点を当て、基礎的な英語運用能力の習得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グローバル化が進み、他者や異文化との接触や交流機会が増える中、お互いを尊重し、外国語での確に意思疎通を図る能力が求められていることから、学生が「何ができるようになるか」を重視し、全学DPに掲げる能力を養成する（「英語・外国語科目共通の考え方」以下同じ）。授業では、英語4技能に配慮しつつ、下記に示したテーマについて、特に「聞く」、「話す」の演習を通じて、基礎レベルの英語運用能力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction</p> <p>第2回：College Life（大学生生活の意義について考えよう）</p> <p>第3回：Understanding Copyright（著作権について考えよう）</p> <p>第4回：Cyber Bullying（ネットいじめについて考えよう）</p> <p>第5回：Tourism（快適な旅のコツについて考えよう）</p> <p>第6回：Foreign Encounters（異文化体験について考えよう）</p> <p>第7回：Review 1</p> <p>第8回：Entertainment（娯楽について考えよう）</p> <p>第9回：International Affairs（国際情勢について考えよう）</p> <p>第10回：Technology（身近にある科学技術について考えよう）</p> <p>第11回：My Future（将来の自分について考えよう）</p> <p>第12回：Personal Finance（お金の管理について考えよう）</p>			

第13回：Health（心と体の健康について考えよう）

第14回：Diversity（多様性について考えよう）

第15回：Review 2

定期試験

テキスト

Global Perspectives Listening & Speaking Book 1 (SEIBIDO)

参考書・参考資料等

授業時に提示する。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。レポート・小テストなどによる平常点50%、定期試験50%を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する。

授業科目名：Academic English 1	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：上原美智子、川上聡、木津久美子、崎川裕貴子、谷川由記、ディエゴ・ロドリゲス、キャサリン・ピエトコスキー、ジェニファー・スチュワート
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①専門的な英語が読めるようになること【読む】 ②英語で専門的な内容を聞いて理解できるようになること【聞く】 ③学术论文の書き方・形式・ルールを理解すること【書く】 ④英語で発表する際に必要な発音などを習得すること【話す】 <p>、等を目的とし、学術英語の基礎の習得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>当該科目では、専門的学びに繋げる英語3科目の基礎科目として位置づけ、学生がアカデミックな英語に触れ、さらには翻訳ソフト等についての基本的な知識等をおさえることとする。授業では、英語4技能に配慮しつつ、内容把握、エッセイ・ライティング、ディスカッション等の演習を通じて、特に「読むこと」および「書くこと」・「話すこと」の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回：Flow of Sentences 第2回：Basic Paragraph 第3回：Developing Coherence 第4回：Guiding Readers 第5回：Hedges and Boosters 第6回：Generating Ideas 第7回：How to Attract Your Readers 第8回：Supporting Your Ideas 第9回：Concluding Paragraphs 			

第10回 : Comparison and Contrast Paragraphs

第11回 : Essay Structure

第12回 : Problem Solving Essay

第13回 : The First Step for Academic Papers

第14回 : Creating a Research Niche

第15回 : Review

定期試験

テキスト Academic Writing Strategies : Focus on Global Issues for Sustainable Development

Goals (KINSEIDO)

参考書・参考資料等

授業時に提示する。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。レポート・小テストなどによる平常点50%、定期試験50%を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する。

授業科目名：Practical English 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤原敬介
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 英語のニュースや会話などを聞き取ることができる。</p> <p>② 英語の説明的な文章を読み、内容を理解することができる。</p> <p>③ 英語のコミュニケーションに関わる文法を理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、e-learningを通じて各自の習熟度に合わせた英語(リスニング、リーディング、文法)の自律学習を行う。本科目は1年生全員必修科目です。この授業科目を未履修では卒業要件を満たさないなので、注意してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>指定されたアプリまたはウェブサイトの所定の入り口から入り、最初に「レベル診断テスト」を受けてください（レベル診断テストを受けた後、受講が可能になります）。判定されたレベルに応じて、「貴方のレベルに合わせたレッスン」を受講することができます。レッスン内容は、リスニング、リーディング、文法の3分野で構成されています。1つのレッスンの最後に理解度を測る「確認テスト」が課され、7割以上の点数を獲得するとそのレッスンは修了したと認められ、次のレッスンに進めます。次に学習すべきレッスンがこれら3つの分野からレベルに合わせて提示されます。特定の分野に偏ることなく、バランスをよく考えて選択し、学習を進めてください。</p> <p>・日程</p> <p>《重要な留意事項》この授業科目は時間割表には掲載されていません。受講の進め方については、前期の学期始めにUNIPAに掲載される「e-learningのオリエンテーション」を確認してください。</p> <p>第1週目～第15週目：</p> <p>Practical English9 (Reallyenglish)の学習の目安は、1週につき3レッスン以上です。</p> <p>学期中に、45レッスンを修了してください。</p> <p>・e-learning教材の最終学習期限は2026年7月25日23時59分です。この時間までに学習を終了させてください。</p> <p>数週間分をまとめて学習するのではなく、毎週、定期的に学習を進めてください。</p> <p>第15週目以降の指定された試験日</p>			

TOEIC 模擬テストをオンラインで受験してください。

教材

EdulinXが提供するe-Learningシステムで、バージョンはPractical English 9 (Reallyenglish) となります。(大学で一括契約をするので初年度は個人の負担はありません。)

初級～上級 (TOEIC® L&Rテスト 225～990点) を対象とした、総合的な英語力をバランスよく強化できるe-learningシステムです。PCだけではなくスマートフォン、タブレットなどからもアクセスが可能ですが、英文読解にはPCでの利用を推奨します。学内での隙間時間などを活用して学習する場合には、必ずイヤフォンを使用してください。

参考書・参考資料等

学習したレッスンで十分に理解できなかった箇所を中心に、辞書等を利用して復習してください。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。

成績 (点数) は次の2つの合計点です：

① Practical English9 (Reallyenglish) の学習成果 (55点満点)

前項の「基準」に記した「合格の基準」を満たす場合は55点、「合格の基準」を満たさない場合は0点。

② TOEIC 模擬テストの成績 (45点満点に換算)

以下の場合、成績無効措置となります。

- ・本人以外による学習が行われた場合
- ・不正に入手した解答等を用いた場合
- ・その他成績無効措置が妥当であると判断された場合

その他注意事項

e-learning教材やテストの問題・解答・解説を、写真・動画やファイル (解答を書き写したのものも含む) をメールやSNSで第三者に送信・共有することは、著作権侵害などの違法行為となります。教材運営会社から業務妨害で訴えられることも考えられます。十分に注意してください。

授業科目名：English Communication 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石野美香、上原美智子、 川上聡、木津久美子、 崎野悦代、谷川由記 担当形態： クラス分け（単独）
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>技能の基礎の習得を目指し、特に「聞く力」と「話す力」を中心に養成する。授業では、①日常生活や学術活動、将来のキャリア等において必要となる英語文を理解し、表現すること、②上記の英語文を活用しながら、身の回りで起こる事柄の趣旨や要点を表現すること、に焦点を当て、基礎から中級レベルの英語運用能力の習得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グローバル化が進み、他者や異文化との接触や交流機会が増える中、お互いを尊重し、外国語での確に意思疎通を図る能力が求められていることから、学生が「何ができるようになるか」を重視し、全学DPに掲げる能力を養成する（「英語・外国語科目共通の考え方」以下同じ）。授業では、英語4技能に配慮しつつ、下記に示したテーマについて、特に「聞く」、「話す」の演習を通じて、基礎から中級レベルの英語運用能力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction</p> <p>第2回：Academic Research（学術的な研究について考えよう）</p> <p>第3回：Social Issues in Japan（日本の社会について考えよう）</p> <p>第4回：Personal Safety（身の回りの安全について考えよう）</p> <p>第5回：Gender（社会的性差について考えよう）</p> <p>第6回：Religion（世界の宗教について考えよう）</p> <p>第7回：Business（国際ビジネスについて考えよう）</p> <p>第8回：Review 1</p> <p>第9回：Career（キャリア形成について考えよう）</p> <p>第10回：Japanese Culture（日本の文化について考えよう）</p> <p>第11回：Law and Peace（法と平和について考えよう）</p> <p>第12回：Ethnicity（民族性について考えよう）</p> <p>第13回：Science and Scientist（科学について考えよう）</p> <p>第14回：Styles of Writing（書きことばと話しことばの違いについて考えよう）</p>			

第15回：Review 2

定期試験

テキスト

Global Perspectives Listening & Speaking Book 2 (SEIBIDO)

参考書・参考資料等

授業時に提示する。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。レポート・小テストなどによる平常点50%、定期試験50%を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する。

授業科目名：English Communication 2 (アドバンス)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： キャサリン・ピエトコスキ ー、ジェニファー・スチュ ワート、チュ・チアファ
			担当形態： クラス分け（単独）
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>技能の習得を目指し、特に「聞く力」と「話す力」を中心に養成する。授業では、①日常生活や学術活動、将来のキャリア等において必要となる英語文を理解し、表現すること、②上記の英語文を活用しながら、身の回りで起こる事柄の趣旨や要点を表現すること、等に焦点をあて、応用レベルまでの英語運用能力の習得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グローバル化が進み、他者や異文化との接触や交流機会が増える中、お互いを尊重し、外国語での確に意思疎通を図る能力が求められていることから、学生が「何ができるようになるか」を重視し、全学DPに掲げる能力を養成する（「英語・外国語科目共通の考え方」以下同じ）。授業では、英語4技能に配慮しつつ、下記に示したテーマについて、特に「聞く」、「話す」の演習を通じて、応用レベルまでの英語運用能力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction</p> <p>第2回：Academic Research（学術的な研究について考えよう）</p> <p>第3回：Social Issues in Japan（日本の社会について考えよう）</p> <p>第4回：Personal Safety（身の回りの安全について考えよう）</p> <p>第5回：Gender（社会的性差について考えよう）</p> <p>第6回：Religion（世界の宗教について考えよう）</p> <p>第7回：Business（国際ビジネスについて考えよう）</p> <p>第8回：Review 1</p> <p>第9回：Career（キャリア形成について考えよう）</p> <p>第10回：Japanese Culture（日本の文化について考えよう）</p> <p>第11回：Law and Peace（法と平和について考えよう）</p> <p>第12回：Ethnicity（民族性について考えよう）</p> <p>第13回：Science and Scientist（科学について考えよう）</p> <p>第14回：Styles of Writing（書きことばと話しことばの違いについて考えよう）</p>			

第15回：Review 2

定期試験

テキスト

Global Perspectives Listening & Speaking Book 2 (SEIBIDO)

参考書・参考資料等

授業時に提示する。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。レポート・小テストなどによる平常点50%、定期試験50%を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する。

授業科目名：Academic English 2	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：内山知美、岡部浩子、木津久美子、崎川裕貴子、崎野悦代、 担当形態： クラス分け（単独）
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業では、</p> <p>①英語で書かれた専門書が読めるようになること【読む】</p> <p>②英語で専門的な内容を聞いて理解できるようになること【聞く】</p> <p>③学術論文の書き方・形式・ルール、資料の検索方法を理解すること【書く】</p> <p>④英語で発表する際に必要な発音などを習得すること【話す】</p> <p>、等について、基礎から中級レベルの定着を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>当該科目では、専門的学びに繋げる英語3科目の基礎科目として位置づけ、学生がアカデミックな英語に触れ、さらには翻訳ソフト等についての知識等をおさえることとする。授業では、英語4技能に配慮しつつ、内容把握、エッセイ・ライティング、ディスカッション等の演習を通じて、特に「読むこと」および「書くこと」・「話すこと」の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Explore the World Beyond the Syllabus</p> <p>第2回：The University & Civic Engagement: A Brief History</p> <p>第3回：Life Design for Centenarians</p> <p>第4回：Can Humans Really Fall in Love with Robot?</p> <p>第5回：Looking at Art of Other Cultures</p> <p>第6回：What Literary Works Teach Us</p> <p>第7回：Advice from the Philosopher Nietzsche: Have a Strong Will to Live Well</p> <p>第8回：Three Tools for Learning at University</p> <p>第9回：Laugh, and then Think: The Ig Nobel Prize</p> <p>第10回：Ecological Thinking</p> <p>第11回：Economy, Healthcare and Quality of Life in Two Cities</p> <p>第12回：Sports, Culture and Communication</p> <p>第13回：Form and Function in Classical Music</p> <p>第14回：Business in Asia: Global Companies in Japan</p>			

第15回：Review

定期試験

テキストExploring Liberal Arts in the 21 Century (SEIBIDO)

参考書・参考資料等

授業時に提示する。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。レポート・小テストなどによる平常点50%、定期試験50%を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する。

授業科目名：Academic English 2 (アドバンス)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：宮下芳、 谷川由記、ディエゴ・ロドリゲス
			担当形態： クラス分け（単独）
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業では、</p> <p>①英語で書かれた専門書が読めるようになること【読む】</p> <p>②英語で専門的な内容を聞いて理解できるようになること【聞く】</p> <p>③学術論文の書き方・形式・ルール、資料の検索方法を理解すること【書く】</p> <p>④英語で発表する際に必要な発音などを習得すること【話す】</p> <p>、等について、応用レベルまでの到達を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>当該科目では、専門的学びに繋げる英語3科目の基礎科目として位置づけ、学生がアカデミックな英語に触れ、さらには翻訳ソフト等についての知識等をおさえることとする。授業では、英語4技能に配慮し、内容把握やパラフレーズ、アカデミック・ライティング、ディスカッション等の演習を通じて、特に「読むこと」及び「書くこと」・「話すこと」の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Explore the World Beyond the Syllabus</p> <p>第2回：The University & Civic Engagement: A Brief History</p> <p>第3回：Life Design for Centenarians</p> <p>第4回：Can Humans Really Fall in Love with Robot?</p> <p>第5回：Looking at Art of Other Cultures</p> <p>第6回：What Literary Works Teach Us</p> <p>第7回：Advice from the Philosopher Nietzsche: Have a Strong Will to Live Well</p> <p>第8回：Three Tools for Learning at University</p> <p>第9回：Laugh, and then Think: The Ig Nobel Prize</p> <p>第10回：Ecological Thinking</p> <p>第11回：Economy, Healthcare and Quality of Life in Two Cities</p> <p>第12回：Sports, Culture and Communication</p> <p>第13回：Form and Function in Classical Music</p> <p>第14回：Business in Asia: Global Companies in Japan</p>			

第15回：Review

定期試験

テキストExploring Liberal Arts in the 21 Century (SEIBIDO)

参考書・参考資料等

授業時に提示する。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。レポート・小テストなどによる平常点50%、定期試験50%を基準として、受講態度を含めて総合的に評価する。

授業科目名：Practical English 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤原敬介
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 英語のニュースや会話などを聞き取ることができる。</p> <p>② 英語の説明的な文章を読み、内容を理解することができる。</p> <p>③ 英語のコミュニケーションに関わる文法を理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、e-learningを通じて各自の習熟度に合わせた英語(リスニング、リーディング、文法)の自律学習を行う。本科目は1年生全員必修科目です。この授業科目を未履修では卒業要件を満たさないなので、注意してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>前期に受講された方も夏季休暇中に学力が向上されるケースもありますので、再度、指定されたアプリまたはウェブサイトの所定の入り口から入り、最初に「レベル診断テスト」を受けてください（レベル診断テストを受けた後、受講が可能になります）。新たに判定されたレベルに応じて、「貴方のレベルに合わせたレッスン」を受講することができます。前期の学習内容はデータに保存されているので、重複したレッスンが表示されることはありません。レッスン内容は、リスニング、リーディング、文法の3分野で構成されています。1つのレッスンの最後に理解度を測る「確認テスト」が課され、7割以上の点数を獲得するとそのレッスンは修了したと認められ、次のレッスンに進めます。次に学習すべきレッスンがこれら3つの分野からレベルに合わせて提示されます。特定の分野に偏ることなく、バランスをよく考えて選択し、学習を進めてください。</p> <p>・日程</p> <p>《重要な留意事項》この授業科目は時間割表には掲載されていません。受講の進め方については、前期の学期始めにUNIPAに掲載された「e-learningのオリエンテーション」を再度確認してください。</p> <p>第1週目～第15週目：</p> <p>Practical English 9 (Reallyenglish)の学習の目安は、1週につき3レッスン以上です。</p> <p>学期中に、45レッスンを修了してください。</p> <p>・e-learning教材の最終学習期限は2027年1月25日23時59分です。この時間までに学習を終了させてください。</p>			

数週間分をまとめて学習するのではなく、毎週、定期的に学習を進めてください。

第15週目以降の指定された試験日

TOEIC 模擬テストをオンラインで受験してください。

教材

EdulinXが提供するe-Learningシステムで、バージョンはPractical English 9 (Reallyenglish) となります。(大学で一括契約をするので初年度は個人の負担はありません。)

初級～上級 (TOEIC® L&Rテスト 225～990点) を対象とした、総合的な英語力をバランスよく強化できるe-learningシステムです。PCだけではなくスマートフォン、タブレットなどからもアクセスが可能ですが、英文読解にはPCでの利用を推奨します。学内での隙間時間などを活用して学習する場合には、必ずイヤフォンを使用してください。

参考書・参考資料等

学習したレッスンで十分に理解できなかった箇所を中心に、辞書等を利用して復習してください。

学生に対する評価

上記の到達目標を達成したものに単位を授与する。講義到達目標に記載する能力の到達度に応じて、SからCまで成績を与える。

成績（点数）は次の2つの合計点です：

① Practical English9 (Reallyenglish)の学習成果 (55点満点)

前項の「基準」に記した「合格の基準」を満たす場合は55点、「合格の基準」を満たさない場合は0点。

② 後期試験期間中に実施するTOEIC 模擬テストの成績 (45点満点に換算)

以下の場合、成績無効措置となります。

- ・本人以外による学習が行われた場合
- ・不正に入手した解答等を用いた場合
- ・その他成績無効措置が妥当であると判断された場合

その他注意事項

e-learning教材やテストの問題・解答・解説を、写真・動画やファイル（解答を書き写したものも含む）をメールやSNSで第三者に送信・共有することは、著作権侵害などの違法行為となります。教材運営会社から業務妨害で訴えられることも考えられます。十分に注意してください。。

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：前田 光治、佐藤 孝雄、佐藤根 大士、新船 幸二、山添 大丈、古賀 麻由子、奥田萌莉、大阪 藍、川口 夏樹
			担当形態：共同
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ 社会におけるデータサイエンスの重要性に対する理解を深め、データサイエンスの概念やその活用について基本的な技術を修得する。 到達目標 データサイエンス活用、データ分析、そして、情報の取り扱いを理解する。			
授業の概要 本講義ではまずインターネットリテラシーなどのインターネットの使用上の注意を含めて、コンピュータの基本的な使用方法に関する講義・演習を行う。さらに、データサイエンスにおけるデータ分析および統計処理の基礎について教育する。			
授業計画 第1回：授業内容概要、大学システムの説明、メール・インターネットセキュリティ等 第2回：現代社会におけるデータサイエンス 第3回：社会・工学分野におけるデータ・AI利活用領域 第4回：データ・AI利活用のための技術と応用事例 第5回：データ処理の概要 第6回：統計学 第7回：データの可視化1（棒グラフなど） 第8回：データの可視化2（ヒートマップなど） 第9回：仮説検定1（t検定） 第10回：仮説検定2（カイ二乗検定） 第11回：データの前処理 第12回：回帰分析1（線形回帰） 第13回：回帰分析2（重回帰） 第14回：実データに対するデータ解析 第15回：まとめ			
テキスト			

統計学の基礎から学ぶ Excelデータ分析の全知識 三好大悟 著/豎田洋資 監修 インプレス (生協で購入する)

原則 PC 持参のこと。

参考書・参考資料等

Excel統計学超入門 角田保 著 オーム社

学生に対する評価

講義目的・到達目標に記載する事項についての到達度に応じて、S (90点以上)、A (80点以上)、B (70点以上)、C (60点以上) の成績評価の上、単位を付与する。

全ての課題を提出している者に対し課題(70%)および小テスト(30%)を基本として受講態度を含めて総合的に評価する。なお、3回以上の欠席したものは、最終課題を評価しない。

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口 裕毅
			担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、教育の基本的概念を理解するとともに、教育の理念を歴史や思想の中から理解することを目的とする。その際に、「教育の目的」「教育の内容と方法」「教育の制度と経営」「教師の資質」等、現代の教育を理解するうえで必須の事項と教育の基本的概念や理念との関連についても論究する。</p> <p>本講義の到達目標は、「教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標」「子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係」「家族と社会による教育の歴史」「近代教育制度の成立と展開」「歴史的な視点からの現代社会における教育課題」「家庭や子供に関わる教育の思想」「学校や学習に関わる教育の思想」「代表的な教育家の思想」を理解すること、である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では最初に教育の基礎理論を紹介、次いで教育の歴史と思想を概観する。講義の後半部では、現代社会における教育の諸課題について、多文化共生や持続可能な開発目標等を具体例とし、検証を加えながら、その問題点や解決の方法を講述する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の基本的概念（教育、人間形成、公教育の概念）</p> <p>第2回：子ども・家庭・社会・学校の相互関係</p> <p>第3回：古代・中世の西洋の教育の歴史（古代ギリシャ、中世、ルネサンス）</p> <p>第4回：近代以降の西洋の教育の歴史（近代国民国家と教育制度の成立、新教育運動）</p> <p>第5回：近代西洋の教育思想（ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト、デューイ）</p> <p>第6回：明治期から昭和初期の日本の教育の歴史（近代教育制度の成立、大正新教育運動、戦時下の教育）</p> <p>第7回：昭和後期から現代の日本の教育の歴史（戦後教育改革、教育の現代化運動、教育問題と教育改革）</p> <p>第8回：新しい時代の世界的学力（PISA リテラシー、キーコンピテンシー、学習指導要領の改訂骨子）</p> <p>第9回：教育の方法と技術（学級の思想・原理、教育方法、評価方法）</p> <p>第10回：教育課程とカリキュラム・マネジメント（教育課程編成の原理）</p> <p>第11回：家庭・地域・社会の教育と学校教育</p> <p>第12回：教師の職務と専門性（教職観の変遷、教職の専門性、教師の資質能力）</p> <p>第13回：諸外国の教育の動向と原理（多文化・多言語・多宗教の社会における教育）</p>			

第14回：現代社会の課題群と教育の動向（持続可能な開発目標と教育） 第15回：総括 定期試験
テキスト 『やさしく学ぶ教育原理』（佐々木司・熊井将太編著、ミネルヴァ書房）
参考書・参考資料等 『教育思想事典（増補改訂版）』（教育思想史学会編、勁草書房） 『教育哲学事典』（教育哲学会編、丸善出版）
学生に対する評価 定期試験（60%）、毎回の授業後に提出するコメントシート（15%）、小レポート（25%）、

授業科目名：教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：尾崎公子、竹 内和雄
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>■授業のテーマ：教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容など教職の在り方について理解することを目的とするとともに、自らの適性を判断する進路選択の機会とし、教職への意欲を高めることをねらいとする。</p> <p>■到達目標：下記の1)～8)について理解し、説明できることを到達目標とする。</p> <p>1) 公教育の目的とその担い手たる教員の存在意義</p> <p>2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通じた教職の職業的特徴</p> <p>3) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割</p> <p>4) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力</p> <p>5) 生徒への指導及び指導以外の公務を含めた教員の職務の全体像</p> <p>6) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性</p> <p>7) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障</p> <p>8) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教員の身分・研修等教職に関わる制度、そしてこれまでの教員像をめぐる論議を取り上げ、近年の社会変化の中で新たに求められるようになっている教員の役割を講じていく。さらに、教職経験者等を招き、現場の具体的な状況に触れ、進路選択に資する機会を設ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目標・概要説明（担当：尾崎公子）</p> <p>第2回：「教員」についてのブレインストーミングー教員に求められる資質能力とは (担当：尾崎公子)</p> <p>第3回：教職の意義ー公教育制度と教員（担当：尾崎公子）</p> <p>第4回：教職の歴史（担当：尾崎公子）</p> <p>第5回 教員像 ①聖職論、専門職論、労働者論（担当：尾崎公子）</p> <p>第6回：教員像 ②教職とジェンダー（担当：尾崎公子）</p> <p>第7回：教員像 ③次世代の学校と教員（担当：尾崎公子）</p> <p>第8回：教職制度 ①教員の服務・身分保障（担当：尾崎公子）</p>			

第9回：教職制度 ②研修、教員評価（担当：尾崎公子）

第10回：チーム学校運営（担当：尾崎公子）

第11回：求められる教員の役割 ①生徒との関わり（担当：竹内和雄）

第12回：求められる教員の役割 ②保護者との関わり（担当：竹内和雄）

第13回：求められる教員の役割 ③地域との関わり（担当：竹内和雄）

第14回：教職という進路選択について（担当：尾崎公子）

第15回：まとめと評価（到達度の確認）（担当：尾崎公子）

定期試験は実施しない

テキスト なし

参考書・参考資料等 本図愛美『新・教育の制度と経営』（学事出版）

学生に対する評価

振り返り課題レポート50%・小テスト50%を規準として、受講態度（グループディスカッション、発表など）を含めて総合的に評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：尾崎 公子 担当形態：単 独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>■教育のテーマ：教育に関する社会的、制度的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）を学ぶ</p> <p>■到達目標：下記1)～8)について理解し、説明できることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公教育の原理及び理念 2) 公教育制度を構成している教育関係法規 3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 4) 教育制度をめぐる諸課題 5) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法 6) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められている経緯 7) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性 8) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校を取り巻く新たな安全上の課題に関わる安全管理及び安全教育の両面における具体的な取組 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、公教育制度の成立過程を歴史的に振り返りながら、原理・理念や法的枠組みについて講じていく。また、保護者や地域住民が参画する学校運営の仕組みや実践例、学校安全に関わる取組みを取り上げながら、近年の社会変化に応答できる学校像を探っていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目標・概要説明</p> <p>第2回：「教育」「学校」についてのブレインストーミング</p> <p>第3回：公教育制度の成立過程</p> <p>第4回：公教育制度の原理・理念</p> <p>第5回：公教育制度の基本法 ①憲法・教育基本法</p> <p>第6回：公教育制度の基本法 ②学校教育法</p> <p>第7回：教育行財政の仕組み ①教育委員会制度</p> <p>第8回：教育行財政の仕組み ②義務教育費国庫負担制度など</p> <p>第9回：開かれた学校政策 ①制度：学校評議員、学校運営協議会制度（コミュニティスクール）</p> <p>第10回：開かれた学校政策 ②実践例：学社融合、地域学校協働活動事例など</p> <p>第11回：教育制度をめぐる諸課題 ①子どもの貧困</p>			

第12回：教育制度をめぐる諸課題 ②人口減少社会と学校の小規模校化

第13回：教育制度をめぐる諸課題 ③規制緩和と地方分権

第14回：学校安全への対応－危機管理や事故対応

第15回：まとめと評価（到達度の確認）

定期試験は実施しない

テキスト なし

参考書・参考資料等 本図愛美・末富芳編『新・教育の制度と経営』（学事出版）

学生に対する評価

小テスト70%、振り返り課題レポート30%を規準として、受講態度（ディスカッション、発表等）を含めて総合的に評価する。

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 保坂裕子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育心理学においては、教育実践を教育する側のみならず、学ぶ側の視点をもつことが必要である。また、心身の発達過程および特徴を理解することによって、多様な学びの可能性を追求するよりよい実践の可能性を追求することを目指す。</p> <p>(1) 各心理学において見出された学習の形態や概念、過程に関わる基礎理論について説明することができる</p> <p>(2) 学校における人間関係（生徒間、教師一生徒など）や集団づくり、について説明することができる</p> <p>(3) 主体的学びを達成するための授業づくりや学習評価を実施することができる</p> <p>(4) 個々の心身発達の多様性をふまえた指導とケアを実践することができる</p> <p>(5) 学校教育現場における現状をふまえ、課題解決を図るための提案をすることができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校の社会的意義、実践的意義が問い直されるなかで、その根本にある「学習する」とはどのようなことか、「発達する」とはどのようなことかについて、考察することを目的とする。生徒の発達段階に配慮した学習指導、またいじめや不登校、軽度・重度を含む障害をもった子どもたちへの特別支援教育のあり方などの、現在学校教育現場が直面している課題の対応策についても、具体的に提案する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目標や概要を説明する。</p> <p>第2回：現代における教育問題をどのようにみるか。（ディスカッション）</p> <p>第3回：記憶力がいいとはどういうことか(第1章)</p> <p>第4回：学ぶことと考えること（第2章）</p> <p>第5回：ほめることの大切さ(第3章)</p> <p>第6回：「やる気」を考える(第4章)</p> <p>第7回：学級という社会（第5章）</p> <p>第8回：どのように教えるか(第6章)</p> <p>第9回：どう評価するか（第7章）</p> <p>第10回：発達について考える(第8章)</p>			

第11回：知的発達のみカニズム（第9章）

第12回：人格発達のみ基礎（第10章）

第13回：個にんじた教育実践（障害をを持った生徒たちの指導をを含む）

第14回：カウソセリング（第11章）

第15回：まとめと評価（到達度の確認）

テキスト

『やさしい教育心理学』鎌原雅彦・竹網誠一郎著（有斐閣）

参考書・参考資料等

適時、指示する。

学生に対する評価

【成績評価の基準】

学校教育の現状をふまえ、教育と学習に関する基礎理論を理解し、個々の学習者を尊重し、課題を解決しようとする者に単位を授与する。

講義目的・到達目標に記載する項目の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を付与する。

【成績評価の方法】

講義中に行う発表および、小レポートおよびディスカッション40%、最終の発表とレポート60%を基準として、総合的に評価する。

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 古川恵美
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援について理解する			
【到達目標】			
1. 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、説明できるようになる			
2. 特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解し、説明できるようになる			
3. 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえた個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、説明できるようになる			
4. 特別な支援を必要とする幼児児童生徒やその保護者の思いを知り、合意形成していく重要性について理解することができる			
授業の概要			
特別支援教育は特別な場や人だけが関わる教育ではなく、通常の学級を含めて一人ひとりのニーズを把握し、支援することが求められる教育である。			
本講義では、特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。障害はないが、特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援についても、具体的事例に基づき学ぶ。			
授業計画			
第1回：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み			
第2回：特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程			
第3回：視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等について			
第4回：発達障害（学習障害・注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム障害）について			
第5回：「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について			
第6回：個別の指導計画と個別の教育支援計画について			
第7回：特別支援学校のセンター的機能と、各学校における支援体制の構築について			
第8回：特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難とその対応について			
テキスト			
授業中に適宜紹介する			

参考書・参考資料等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育の基礎・基本 2020, ジアース教育新社
特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領: 平成29年4月告示 (文部科学省)
特別支援学校 高等部学習指導要領: 平成31年2月告示 (文部科学省)

学生に対する評価

特別支援教育の意義と目的を理解し、現状を理解し分析ができる者に単位を授与する。
講義目的・到達目標に記載する能力(知識・技能、思考力、判断力、表現力等)の到達度に応じて
SからCまで成績を与える。レポート・小テスト50%、最終テスト50%を基準として、積極的な質問
等の受講態度を含めて総合的に評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：池田 雅則 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することをテーマとする。到達目標は、教育課程に関する理論をふまえて実践的な指導計画を作成できることに設定する。主な授業内容は、①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義、②教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法、③学校教育全体のカリキュラムの把握とマネジメントである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程が社会において果たしている役割や機能 第2回：学習指導要領の性格及び位置付けと教育課程編成の目的 第3回：学習指導要領の改訂の変遷と社会的背景 第4回：教育課程編成の基本原則 第5回：教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法 第6回：児童生徒や学校・地域の実態を踏まえた長期的な教育課程編成や指導計画 第7回：学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの意義 第8回：カリキュラム評価の基礎的な考え方</p>			
<p>テキスト</p> <p>免許状を取得しようとする学校種の『学習指導要領』 養護教諭免許状および栄養教諭免許状取得希望者は『小学校学習指導要領』</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜紹介する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中に実施する小レポート（3分の1）、指導計画立案に関する最終レポート（3分の2）</p>			

授業科目名： 総合的な学習の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：八木 眞由美 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 【講義目的】 総合的な学習の時間の教育課程における位置づけを理解して、テーマ学習、横断的な学習についてのイメージを膨らませる。実際に行われている授業実践を知り、総合的な学習の実践の展望をもつことができる 【到達目標】 理論をふまえて、実践的な指導計画を作成できる。			
授業の概要 適宜プリント資料（データ配付）を配布して前半は講義形式中心で進める。グループ討議や授業記録などのビデオ視聴も適宜とり入れる。後半は、グループワーク中心で進める。			
授業計画 第1回：本講義の概要と視点 21世紀型の学力、主体的・対話的で深い学びについて 第2回：「総合的な学習の時間」のねらいと意義 第3回：「総合的な学習の時間」の背景と実践の現状把握 第4回：「総合的な学習の時間」の教育課程への位置付け 第5回：「総合的な学習の時間」の計画・実践・評価のプロセス 第6回：「総合的な学習の時間」のテーマ設定と各教科・他領域との関連 カリキュラムマネジメントについて 第7回：「総合的な学習の時間」の単元構成の在り方とその具体 第8回：まとめ、「総合的な学習の時間」における指導技術・求められる教師の力量 定期試験：なし			
テキスト 文部科学省『学習指導要領』（各自が教員免許状取得希望の校種のもの・養護教諭と栄養教諭は小学校のもの。） 文部科学省『小学校・中学校・（高等学校）学習指導要領解説 総合的な学習（探究）の時間編』（各自が取得希望の校種のもの、養護教諭と栄養教諭は小学校のもの。）			

適宜資料を配布する。（ユニパのクラスプロフィール機能を通じてデーターにて配布する。）

参考書・参考資料等

講義において適宜紹介する

学生に対する評価

【成績評価の基準】

講義内容をふまえて、学習指導案を作成できている学生に単位を与える。

講義目的・到達目標に記載する能力の到達度に基づき、S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）による成績評価のうえ、単位を与える。

【成績評価の方法】

授業中に実施する課題レポート（40%）、最終日に作成する学習指導案（60%）

・小レポートについては、講義の中で、総合的な講評を実施するとともに、模範的なものを取り上げて紹介する。

・最終課題についても、ユニバーサルパスポートを通じて、総合的な講評を実施するとともに模範的な指導案を紹介する。

授業科目名：特別活動 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：池田 雅則 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
<p>授業の概要</p> <p>学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である特別活動の意義、目的および内容を理解し、指導のあり方を理解することがテーマである。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けることを到達目標とする。主な授業内容は、①特別活動の意義、目標及び内容、②特別活動の指導の在り方である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容 第2回：教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連 第3回：学級活動・ホームルーム活動の特質 第4回：児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質 第5回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導 第6回：合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導 第7回：家庭・地域住民や関係機関との連携 第8回：取り組んだことの評価と改善</p>			
<p>テキスト</p> <p>免許状を取得しようとする学校種の『学習指導要領』『学習指導要領解説 特別活動』 養護教諭免許状および栄養教諭免許状取得希望者は小学校のものとする</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜紹介する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中に実施する小レポート（3分の1）、指導計画立案に関する最終レポート（3分の2）</p>			

授業科目名：教育方法・情報通信技術活用論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西川雅秀、徳島祐彌、中村恵
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>講義目的</p> <p>これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <p>①求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し，教育の目的に適した指導技術を理解し身につけること</p> <p>②情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけること</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業計画を作成するにあたり，学習指導要領，教科書，工夫した教材，ICT等の活用方法を学ぶ。また，情報活用能力，情報モラル，プログラミング，校務の情報化等について理解する。</p>			
<p>講義内容・授業計画</p> <p>第1回：主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の在り方（徳島）</p> <p>学習者が自ら課題を見だし，仲間と対話しながら理解を深める学びの重要性を考える。「主体的・対話的で深い学び」の考え方と授業への具体的な展開の仕方を学ぶ。</p> <p>第2回：授業の設計と学習指導案の作成（徳島）</p> <p>教育目標・内容・方法の関係を整理し，効果的な授業構成を考える。学習者の実態を踏まえた学習指導案の作成手順と留意点を理解する。</p> <p>第3回：教育目標と学習評価の考え方（徳島）</p> <p>学習者の成長を促す教育目標の立て方を学び，学習評価の意義と方法を理解する。評価を通して学びを支援する視点を身につける。</p> <p>第4回：教材・教具づくりの方法（徳島）</p> <p>教育目標や教育内容に応じた教材・教具の選定と工夫を学ぶ。学習意欲を高める効果的な教材づくりの方法を検討する。</p>			

第5回：板書・発問の技術（徳島）

学習内容を整理し思考を促す板書の工夫と、学習者の思考を深める発問の仕方を学ぶ。

第6回：学習形態・学習環境の工夫（徳島）

個別学習・協同学習など多様な学習形態を理解し、学習内容や目的に応じた環境づくりを考える。

（授業内試験①）

第7回：教師による ICT 活用（西川）

ICT を活用した効果的な教室環境づくりや教材収集・作成に関して学び、教育方法の理論を踏まえながら ICT を効果的に活用した授業の計画やわかる授業を実践する方策について、教材の提示の工夫や教師の指示・発問の重要性を押さえながら学ぶ。

第8回：学校放送番組の活用（西川）

学校放送番組の特徴と活用状況を知り、授業での効果的な活用のタイミングを理解する。「NHK for School」を活用した授業展開について学び、実際に学校放送番組を活用した単元計画を確認して、それらを活用する指導方法について考える。

第9回：思考力を育てる授業（西川）

思考力・判断力・表現力の育成のための授業の組み立ての原則、子どもが学習目標に到達できるための単元計画、1時間毎の学習目標の細分化、学習目標と学習活動の関係、学習活動につながる導入、準備、効果的な ICT 活用、学習活動後の振り返りなどの観点から教師の授業設計について学ぶ。

第10回：児童生徒による ICT 活用（西川）

児童生徒による ICT 活用が求められる意義や期待される効果などについて、教師による ICT 活用と対比する形で外観し、その具体的な学習場面と日常的な活用により、ICT の基本的な操作を習得させる意義や方法について学ぶ。

第11回：情報活用能力の育成（中村）

情報教育における情報活用能力の定義と、その育成の動向について概観し、学校現場での取り組みを知る。また、情報活用能力を育成する教材開発について、教科横断型教材と、教科型教材について学び、指導法についての理解を深める。

第12回：情報モラル教育（中村）

社会の情報化に伴う情報モラル教育の必要性や、情報活用能力の一部に含まれていることを、政策文書等で確認する。その上で、メディアや情報社会に関する科学的な理解を踏まえた実践例や授業作りの考え方について、メディア・リテラシー教育と比較して学ぶ。

第13回：プログラミング教育（中村）

プログラミング教育の導入の経緯や諸外国の状況を理解し、学校教育における位置付けや目指すものについて学習指導要領等の公的資料などから理解する。その上で、プログラミングを学ばせるための手順や具体的な授業の方法を学び、授業設計や授業の実施に活かせるようにする。（授業内試験②）

第 14 回：校務の情報化（中村）

教育の情報化について，学校の業務の種類とそれに費やす時間を学び，校務支援システムを活用することにより，業務時間を短縮し，児童生徒の成績や行動の記録等の様々な情報を総合的に把握し，細かな指導を行うとともに評価に活かし，各種データから学校の状況を把握し，学校経営の改善を行なっている事例を学ぶ。

第 15 回：学校の情報管理（中村）

学校における情報管理の基本を理解し，意識と行動を変革する必要性について学ぶ。また，授業改善や校務改善における情報管理，情報セキュリティ対策としての情報管理の二つの観点から，学校における情報管理についての理解を深める。（授業内試験③）

定期試験は実施しない

※パソコンの利用：毎回利用予定

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示）

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示）

学生に対する評価

これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な，教育の方法や技術，情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけた者に単位を授与する。

講義目的・到達目標に記載する知識技能の到達度に応じてSからCまで成績を与える。

毎授業時のミニツペーパー（20%），プレゼンテーション（20%），レポート（30%），授業内試験（30%）

授業科目名：生徒指導 ・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹内和雄 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する 2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導、進路指導の進め方を理解する 3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 4) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>講義、グループワークを通して、教員として必要な生徒指導について理解し、説明できることをめざす</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・生徒指導、進路指導の意義と課題</p> <p>第2回：生徒指導、進路指導の原理と法令理解（懲罰規定等）</p> <p>第3回：中高生の心理と生徒指導、進路指導</p> <p>第4回：生徒指導、進路指導と教育課程</p> <p>第5回：生徒指導提要の理解と方向性</p> <p>第6回：学校での生徒指導、進路指導体制</p> <p>第7回：生徒指導、進路指導における教育相談の意義と進め方</p> <p>第8回：いじめ、暴力行為の現状と対応</p> <p>第9回：不登校の現状と対応</p> <p>第10回：インターネットや性等、今日的な生徒指導課題の現状</p> <p>第11回：体験活動、ガイダンス機能、キャリアカウンセリングの理解と方向性</p> <p>第12回：専門家や関係諸機関との連携</p> <p>第13回：ロールプレイをきっかけにした、実際の生徒指導課題への対応と方向性</p>			

第14回：ロールプレイをきっかけにした、実際の進路指導課題への対応と方向性
第15回：発達支持的生徒指導の重要性と方法・まとめ
定期試験は実施しない
テキスト
生徒指導提要（改訂版）文部科学省（令和4年12月）
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価
各回のレポートの内容（40%）、グループワークへの貢献度（30%）、最終レポートの内容（30%）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上 靖子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、学校現場における心の諸問題について理解し、カウンセリングの基礎を学ぶことである。到達目標は、1) カウンセリングの基礎知識や技法を説明できる、2) 対象者の個性や特性を理解しながら、それに応じたカウンセリング実践の工夫を行い、対人支援のアプローチを多角的に提案し、実践していくことができる。			
授業の概要 カウンセリング理論に関する基礎知識やカウンセリング実践の技法を説明でき、多様な育ちの背景を持つ子どもや保護者を想定したカウンセリングを実践できるようになることを目的とする。子どもの心の諸問題として、いじめ、発達障がい、不登校等に関する知見を取り入れ、どのような配慮や関わりをもったらよいのか、主体的に考え、実践できるようになることをめざす。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要説明 心とは何か</p> <p>第2回：教育相談の概要 学校で求められるカウンセリング</p> <p>第3回：児童生徒と保護者を取り巻く心の諸問題（家庭・地域・社会）</p> <p>第4回：各自の学校体験を振り返る</p> <p>第5回：各自の学校体験を通じたKJ法を用いたグループワーク</p> <p>第6回：カウンセリング理論の基礎（傾聴とは何か）</p> <p>第7回：カウンセリングの実践事例（スクールカウンセリング）</p> <p>第8回：カウンセリングの技法を学ぶ（傾聴の具体的方法）</p> <p>第9回：カウンセリングの実践（児童生徒と保護者の心の諸問題に対する対応）</p> <p>第10回：カウンセリングの実際（ロールプレイ）</p> <p>第11回：児童生徒の心の諸問題の理解と対応（いじめ/非行/不登校）</p> <p>第12回：児童生徒の心の諸問題の理解と対応（発達障がい）</p> <p>第13回：児童生徒の心の諸問題の理解と対応（性暴力被害）ゲスト講師による講演</p> <p>第14回：児童生徒の心の諸問題の理解と対応（グループワーク）</p> <p>第15回：まとめと評価（到達度の確認）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 必要に応じて講義毎にプリント資料などを準備し、配布する			
<p>参考書・参考資料等 河合隼雄（1992）『子どもと学校』岩波新書</p> <p>河合隼雄（1992）『心理療法序説』岩波書店</p> <p>小野田正利（2015）『体験型ワークで学ぶ教育相談』大阪大学出版会</p>			

学生に対する評価 定期試験80%を集中講義の最終日に実施し、受講態度20%（出席数、講義でのコメント、グループワークやロールプレイへの取り組み、積極的質問等）を含め、総合的に評価する。

教職実践演習（中高）	単位数：2単位	担当教員名：竹内和雄、尾崎公子、井上靖子、乾美紀、保坂裕子、山口裕毅、西川雅秀			
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 60人（20人3クラスで実施） クラス合同授業とクラス別授業で、複数教員が担当					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>理科と数学の教科に関する専門事項を担う教員と連携している。教育の基礎的理解に関する科目を担当する教員間で、心理学、教育学の専門領域に応じて、分担して担当している。</p> <p>年度当初に教員全員で教職の現状について討議し、討議結果をその年の講義に反映させる。また、年度終わりに学生の受講態度、受講姿勢等についての振り返りを行い、翌年の講義内容に反映させることとする。また、年度途中にも、気づいたことがあれば連絡、連携を密に乗りながら進めることとする。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：講義・演習、履修カルテの分析を通して、教員になる上での自己の課題を自覚し、不足している知識や技能を補い、その定着を図ることを目的とする。授業では、「教師を目指しての自己形成」のために、講義や演習、発表、ロールプレイ、グループ討議等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱い、教員としての資質能力（1. 使命感や責任感、教育的愛情、2. 社会性や人間関係能力、3. 生徒理解とそれに基づく生徒指導力・学級経営力、4. 教科指導力）の向上を目指す。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育に対する使命感や情熱を持ち、生徒と共に学び成長しようとする姿勢が身についている 2) 高い倫理観と規範意識、困難に向かうという強い意識を持ち、自己の職責を果たすことができる 3) 教員としての職責の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる 4) 組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる 5) 生徒との間に信頼関係を築き、豊かな人間的交流を行うことができる 6) 生徒理解に基づき、適切な指導や学級経営を行うことができる 7) 学習指導の基本的事項を身につけていて、生徒の反応や学習の定着状況に応じて授業形態や学習形態等を工夫することができる。 8) 効果的にICT機器を活用することができる。 					
<p>授業の概要</p> <p>大学4年間で学んだ知識や理論と、教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力等の実践知との更なる有機的統合を図り、教職への確かな自覚を培い、教員としての資質能力の構築とその確認を行う。</p>					

<p>授業計画</p> <p>第1回：履修カルテから長所と課題（教員全員）</p> <p>第2回：グループ討議1 教職に向けた自己理解と課題克服（担当：竹内、尾崎、西川）</p> <p>第3回：ロールプレイ1 生徒対応（担当：竹内、井上、乾）</p> <p>第4回：グループ討議2 生徒対応のポイントと方向性（担当：竹内、尾崎、西川）</p> <p>第5回：ロールプレイ2 保護者対応（担当：竹内、保坂、乾）</p> <p>第6回：グループ討議2 保護者対応のポイントと方向性（担当：竹内、尾崎、西川）</p> <p>第7回：ロールプレイ3 教員集団での立ち位置（担当：竹内、井上、山口）</p> <p>第8回：グループ討議3 組織の一員としての協力と連携のポイントと方向性（担当：竹内、尾崎、西川）</p> <p>第9回：理想の授業のために1 グループで考える理想の授業（竹内、西川）</p> <p>第10回：理想の授業のために2 理想の授業案作成1：方向性検討（竹内、西川）</p> <p>第11回：理想の授業のために3 理想の授業案作成2：実際の指導案作成（竹内、西川）</p> <p>第12回：理想の授業のために4 模擬授業実施（竹内、尾崎、西川）</p> <p>第13回：理想の授業のために5 意見交流会（竹内、尾崎、西川）</p> <p>第14回：将来の教職に向けて（教員全員）</p> <p>第15回：まとめ（教員全員）</p> <p>定期試験は実施しない</p>

<p>テキスト</p> <p>生徒指導提要（改訂版）文部科学省（令和4年12月）</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</p>
--

<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する</p>

<p>学生に対する評価</p> <p>各回のレポートの内容（40%）、グループワークへの貢献度（30%）、最終レポートの内容（30%）</p>

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。